

## 平成22年11月の解説（週間天気予報）

### 【11月の天候状況】

上旬は、北日本と東日本の日本海側は低気圧や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。東日本の太平洋側と西日本では、高気圧に覆われて概ね晴れました。沖縄地方は高気圧の南縁で、湿った気流の影響により曇りの日が多くなりました。中旬は、北日本から西日本は気圧の谷が周期的に通過し、天気は数日の周期で変わりました。沖縄地方は高気圧の南縁で曇りの日が多く、前線の影響で大雨となった所もありました。下旬は、高気圧と低気圧が日本付近を交互に通過し、天気は全国的に数日の周期で変化しました。

月を通しての日照時間は東、西日本では平年より多くなり、特に西日本の日本海側でかなり多くなりました。沖縄・奄美では少なくなりました。降水量は西日本では平年より少なくなり、特に日本海側でかなり少なくなりました。北日本の日本海側では多くなりました。気温は北日本では平年より高くなりました。

### 【11月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年<sup>（注）</sup>より6ポイント高い78%でした。地方毎の適中率は、ほぼ全国的に例年より高くなり、特に関東甲信、近畿、九州北部地方では10ポイントから11ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国的に例年より0.1から0.3小さくなり、全国平均は0.2小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差も全国的に例年より0.1から0.5小さくなり、全国平均は0.3小さくなりました。

<sup>（注）</sup>例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【1月の週間天気予報の利用にあたって】

冬本番になると冬型の気圧配置が多くなり、このとき日本海側では雪、太平洋側では晴れという対照的な天気分布になります。この冬型の気圧配置は、夏型の気圧配置と同じように比較的安定していて持続するので、この期間、太平洋側では晴天が数日間続くことになります。例えば東京では、2010年1月6日から10日まで冬型の気圧配置による晴天が続き、1月4日発表の週間天気予報でもこの晴天を予想していました。このような場合、木材はからからに乾燥し、火災の発生しやすい状態が続きます。さらに、冬型の気圧配置は強い北風を伴うこともあり、いったん火事が発生すると延焼しやすいので火の元にはご注意下さい。